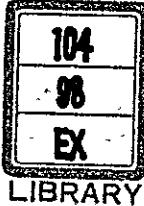


技協派第18号

コロンボ計画による
ビルマ派遣巡回診療団報告書

昭和38年12月

海外技術協力事業団



国際協力事業団	
受入 月日	'84. 5. 18
登録No.	05710 534



1016289[9]

緒 言

コロンボ計画によるビルマ巡回診療団は、昭和38年1月ビルマへ派遣され、同年5月末まで同国において診療活動に従事した。その大要を記せば次の如くである。

診療団編成メンバー

団長	内科医	荒木 威	武蔵野赤十字病院	内科部長
団員	小児科医	福島 光行	同	小児科副部長
"	外科医	今関 英六	同	外科副部長
"	看護婦	森岡 厚子	同	看護婦長
"	"	駒ヶ嶺 佐久子	同	看護婦、助産婦
"	コーディネーター	橋浦 広志	海外技術協力事業団海外事業部職員	

診療団の行動ならびに診療活動の概要：

診療団は、1月19日にラangoon(Rangoon)に到着後同市に約三週間滞在しこの間にラangoon General Hospital、産院、バストール研究所、精神病院、B.P.I. Health Clinic 等を視察した。

2月7日ラangoonよりブローム(Prome)に移動した。同病院および附近の出張診療により約5,000名を診療し、レントゲン間接撮影を6,600名行つた。

3月7日 ブロームよりラangoonに帰り、3月11日 ベグー(Pegu)に移動し、同市に3月31日まで滞在して病院診療および出張診療を行い、4月1日ニヤングレビン(Nyaunglebin)に移動し、同月7日まで同市に滞在した。ベグーおよびニヤングレビンにおいては、診療数7,000名、レントゲン撮影数8,000名であつた。

4月8日トンター(Toungoo)に移動し、同月27日まで同市に滞在した。トンターおよびその附近での診療数は4,500名、レントゲン撮影は5,200名であつた。

4月29日メチラ(Meiktila)に移動した。同市およびその附近での診療数は6,200名、レントゲン撮影数は6,800名であつた。5月17日をもつて診療活動を終つた。

全期間の診療日数は64日、診療総数22,700名、レントゲン撮影

26,600名、外科手術40例であつた。

ビルマ滞在期間は134日に比して、実際に診療せる日数が少いのは、移動日、休日、薬物資材の整備等のために診療できなかつた日があつたからである。

1日の診療数は、多い時には1,000名に達し、診療地附近の人口密度から予想し得る数よりも遙に多數の患者が集つた。その数は3人の医師の診療能力の限界を超えていた。従つて1人当たりの診療期間は、極度に短縮せねばならず充分な診療を行い得なかつたのを遺憾とする。

病気の状況とそれに対する意見：

診療團が診療せる患者は、一般に重症者が多かつた。これは宣伝により多数の受診者を集めたからである。診療した患者の中で最も多數を占めるものは、慢性疲労、低血圧症候群(hypotension syndrome)であつて、とくに女性に多く見られた。これは過労、食餌の不適正、ビタミンや塩類の欠乏、貧血等に関係があると思われる。日本においても夏季に気温の上昇につれて倦怠感を訴へる者は急激に増加する。これに過労を去らしめビタミン類を充分とらしめてもなお症状のとれない者もあり、夏季の過労症候群の真因は不明である。ビルマは、日本より遙に高温であり、生活様式も不便で家庭の電化も進んでいないから過労になる者も多いと考えられるが、生活様式の改善、栄養ビタミンの補給により其の数は可成り減少せしめ得ることわ想像できる。

栄養失調は成人には少かつた。これは米が充分に入手できるためで、戦後の日本の如く主食そのものが欠乏していた時代とは異なる。乳児の栄養失調は、貧困な家庭で母乳不足せる場合には度々見られた。

貧血(anemia)は相當に多いと予想していたが、爪の変形を来る程のものは多くわなかつた。

白血病(leukemia) 其他重篤な血液病は日本より少い様である。

高血圧(hypertension)、瘤、血管性脳障害(vascular brain damage)等の老人性疾患は日本に比し遙に少い。これは老人の数が少いと誘因となるべき種々の刺戟も少いためと考えられる。

消化器疾患では、stomache cancer や ulcerは少く gastritis が多かつた。

ビルマ人の刺戟性の強い副食物は肝に悪いとされているが、予想に反して肝炎(hepatitis)、肝硬変(cirrhosis of liver)はそれほど多くはなかつた。先進諸国には刺戟的副食物よりもなお悪いもの(例えば薬物の乱用)があるのであらう。

甲状腺腫(struma)は、日本では地方病であるが、ビルマでは、地域に限らず全土に存在していると思われる。これはビルマの国土そのものに原因があるのであつて、飲料水に微量の沃度を混することによつて減少せしめ得る。水道の発達していないビルマでは、この事が行はれ難いならば甲状腺腫の素因のあるものに海藻類や干魚をとらしめるのがよい。

心臓疾患のうち弁膜症(valvular disease)や心筋梗塞(myocard infarct)は多くはないが、レントゲン間接撮影で心臓肥大を発見せられた者の数が多い。これは長年に亘り過重の労働を継続した結果と考える。日本においても貧困を農村には都市に比して心臓肥大(heart hypertrophy)の者が多いのである。

腎疾患(disease of kidney)は少いようである。

腎炎(nephritis)は咽頭の炎症に続發する。咽頭の炎症は、寒冷時に起り易い。此点ビルマは恵まれている。なお寒冷が誘因となる rheumatic disease は診療団の巡回せる地域においては少なかつた。

呼吸器疾患(disease of the respiratory system)のうち肺結核は、レントゲン撮影の結果2.4%に発見せられた。これは予想した数よりは寧も少なかつた。殊に学校生徒の結核罹患率の低いのは優秀である。しかし一方において重症肺結核が放置されている事や、ツベルクリン反応によつて知り得た乳児の結核感染率の高さを考えると、ビルマ国内の結核は将来極て重要な問題となるであらう。そのための実態調査を広く行う必要がある。

乳幼児の結核は診療団のレントゲンの対象とはならなかつたが、一般に重症が多く、乳幼児死亡率を高める一つの素因となつてゐると考えられる。幼児の伝染病として百日咳(pertussis)および麻疹(measles)は屢々

見られた。

伝染病のうち最も多く見られたのは赤痢(dysentery)であつた。ビルマ人の食事の習慣は、その流行を助長していると考えられる。

ビルマ人医師は、これをアメーバ赤痢(amebic dysentery)と考えているようであつて、事実 liver abscessが多い点より観てその内の相当数はアメーバ性(amebic)と考えられるが、しかしながら細菌性赤痢(bacillary dysentery)も存在していると思われる。尙て中国の赤痢はアメーバ性が大部分と考えられていたが、菌の検索が進むにつれて細菌性赤痢も相当あることが判明した。ビルマにも同様のことが言えそうである。

同じ腸管系伝染病でありながら腸チフス(typhoid fever)は驚く程少ない。

最近の腸チフスの世界的減少傾向を抗生素質(antibiotics)の乱用によると考える学者もあるが、かかることが考え難いビルマにおいても腸チフスが激減していることは興味ある事実と云つてよい。

マラリヤ(malaria)が激減しているのには一筋を與した。これは蚊の撲滅その他衛生環境の整備によるよりも寧ろ強力な抗マラリヤ剤(antimalarial drug)の出現に負う所が大であると考えられるが、同じく蚊の媒介による dengue fever も減少していることを考えると興味深い問題である。

filariasis は各地において少數づつ見られたが、全国民の健康を脅す程のものではない。

獥(leprosy)は、依然として多く、殊にメチラ附近においては多數の患者を診察した。之に対しては、なお一層の徹底した施策を望む。

乳児の伝染病では、百日咳の他脐帯感染(infection of the umbilical stump)による破傷風(tetanus)は相当の数に上ると想像される。助産をつとめるものに対しなお一層の衛生教育が必要である。

外科的疾患では heruria, 陰莖水腫(hydrocele)が多く見られた。陰莖癌(penis cancer)も日本より多い。

hydrocele の多いのは filariasis と関係ありと思われるが、陰莖癌や hernia が多い理由は不明である。民族の差によるものであろうか。因

にアフリカにおいても西欧に比し hernia が多いと云う。

之に反し、虫垂炎 (appendicitis) は、日本より遙に少なかつた。理由は不明である。

なお骨折を放置して仮関節 (false joint) を作り不具となつてゐる者が見られた。

骨折に副木 (splint) を装着して骨を癒合せしめる程度の事は医学の発達しない以前から既に行はれてゐることであり衛生知識の不足によるものと云わざるを得ない。

地方都市においてトラホーム (trachoma) が多発している所があつた。多くは家庭内の感染によるものである。トラホームは放置せば失明と云う重大な不幸を招くものであり、衛生知識の普及と徹底せる治療が望ましい。性病 (venereal disease) のうち青年の淋疾を見ることが多かつた。その多くは街娼との接触によるものであり、患者の数より判断して、隠くれたる街娼の数は少くないと想像できる。

梅毒 (syphilis) については不明であるが、少くとも嘗て多発した皮膚及骨の梅毒は、殆ど見られなくなつてゐる。これは諸外国と同じ傾向である。なお神經梅毒 (neurosyphilis) も少いようである。

各地の巡回診療中乳幼児に腰々鼻根部の meningocele を見た。この疾患は、一種の奇形 (malformation) であり、日本にも存在することは勿論であるが、鼻根部に出現することは甚だ稀で背部にてることが圧倒的に多い。ビルマの乳幼児に何故にかかる現象が腰々見られるのであろうか。ビルマ人医学者によつて究明さるべき問題である。診療団は、ビルマ医学の指導的立場にある人々にこの点について質問したが、満足すべき回答は得られなかつた。

ビルマの医療衛生に対する意見：

ビルマは、発展しつつある國家であり、将来も発展し続けるであろう。しかしビルマは、発展の途上において多くの困難を克服しなければならない。医療は、その内の重要な問題であつて、医療のみに限定して考えてもその改善は容易でないと想像される。

医療の進歩は他の科学、工業、経済、文化の発達と密接な関係にあり、医療が進み経済や文化が後れたる国家は、世界に存在しないのである。しかして以上の諸要素の根源は究極において教育にありと云うことができる。ビルマは東南アジア諸国の中で最も教育は進んでいるが、科学的教育の普及はまだ充分でない。

ビルマの医療国営制度は社会主义政策の一つのあらはれであろうが、医療が他の事業に先んじて国営とされたことに重要な意味がある。2,000人に足りない少数の医師が自由に医療を行なならば、医師は必然的に富める者の診療に忙殺されて貧者は医療の恩恵を受けられなくなるであろう。医療国営制度は、かかる不合理を防ぎ、全体的に国民の健康を守らんとしている。しかし医師の絶対数の不足は国営医療の成果を充分に上げることを不可能にしている、よつて医師の増員は目下の急務であると考える。医師の不足している時には、医療の重点は国民の健康を最も脅す疾患に対して向けられるべきである。そのためには他の方面が多少犠牲となるのも止むを得ない。すでに頬、性病に対しては特別の予防治療班が設置されそれなりの成果を挙げている。誠に結構なことである。

しかしひルマ国民の健康をむしばみつつある結核に対する施策は充分とは言い難い。

1名の結核患者を早期に発見し、早期に治療することは、その後に発生する数十人の患者を助けることになるのである。結核患者の発見にレントゲンが最も有力なる武器であることは勿論であるが、もしこれがない場合は、喀痰検査により相当数は発見し得る程である。かかる業務に専従する医師の数が不足なれば結核菌の識別のみできる技術介補者を養成するのも一案である。

結核の治療は、ストレプトマイシン(streptomycin)が最も有力であつて、日本のストレプトマイシン使用量は年間約60屯である。ビルマは年間15屯のマイシンが必要と推定されるが、実際に使用されているのは1.5屯であつて1/10である。これは結核患者発見の努力が不足していると同時に1人の患者に使用する量に制限を加えているためと考える。

ビルマの医師は診療に忙殺せられ、疾患について臨床的検査をする余裕が

かのように見える。

いづれの病院においても臨床的検査の設備は貧弱であつた。最近は医学の進歩にともない疾患の臨床的検査は、著しく精細に行うのが各國の趨勢である。ラングーン General Hospital を例にとるならば、検査に従事する人員は 200 名位が適當と思われるのに、実際に検査に当つている人数は、それを遙に下廻つてゐる。

次に栄養の問題に関して述べることにする。一般のビルマ人の食事は日本人と同傾向で米飯多食の習慣がある。その程度は日本人より一層極端である。米の蛋白質は、植物性蛋白質の内で最もすぐれたものであるが、米のみに蛋白を依存するとせば 1 日に成人 900 g の米を摂取せねばならない。これはカロリーの点より見て多きに過ぎるばかりでなく、胃腸に過重の負担をかけ且ビタミン B₁ 不足も招來する。よつて米食を適当に減じ蛋白質脂肪を副食よりとるのが望ましい。

ビタミン B₁ の給源としては、米の精白度を減じ、胚芽を利用し、又新鮮な野菜をとることが必要である。ビルマは日光と高温に恵まれているが乾期が長く、四時野菜入手するためには水の利用にも少し工夫を要する。

結 び：

以上ビルマの医療衛生状況について日本人医師が感じたる点を忌憚なく記述した。

本報告がビルマの衛生行政の上に何等かの参考となれば診療團にとつて幸いである。

